

さらなる魅力づくりに向けた 具体的な方策

府立高校が果たすべき役割と施策の方向性

卓越性を活かす教育

公平性を備える教育

多様性を尊重する教育

- ✦ グローバル社会で活躍できるリーダーの育成
- ✦ 大阪の多様な社会経済基盤を支える人づくり
- ✦ 置かれている環境にかかわらず、社会的経済的に自立して生きていく人づくり

これらを実現するため

➤ 生徒一人ひとりの多様な学習ニーズに応える教育課程や教育活動の提供

⇒ 施策の方向性

- ①-1. 活力ある学校づくりをめざした府立高校の再編整備
- ①-2. 公平でわかりやすい入学者選抜の改善
- ②-1. 社会のリーダー層やグローバル人材に必要な資質・能力の育成
- ②-2. 多様な学習と幅広い進路選択が可能となる学習メニューの提供
- ②-3. 「ものづくり」をはじめとする職業人の育成
- ②-4. 「セーフティネット」の整備と「セカンドチャンス」の提供
- ③-1. キャリア教育の推進とチャレンジ精神の育成
- ③-2. 自立を支援する教育カリキュラム
- ④. つながりをはぐくむ学校づくり
- ⑤. 学習環境の整備

②-1. 社会のリーダー層やグローバル人材に必要な 資質・能力の育成

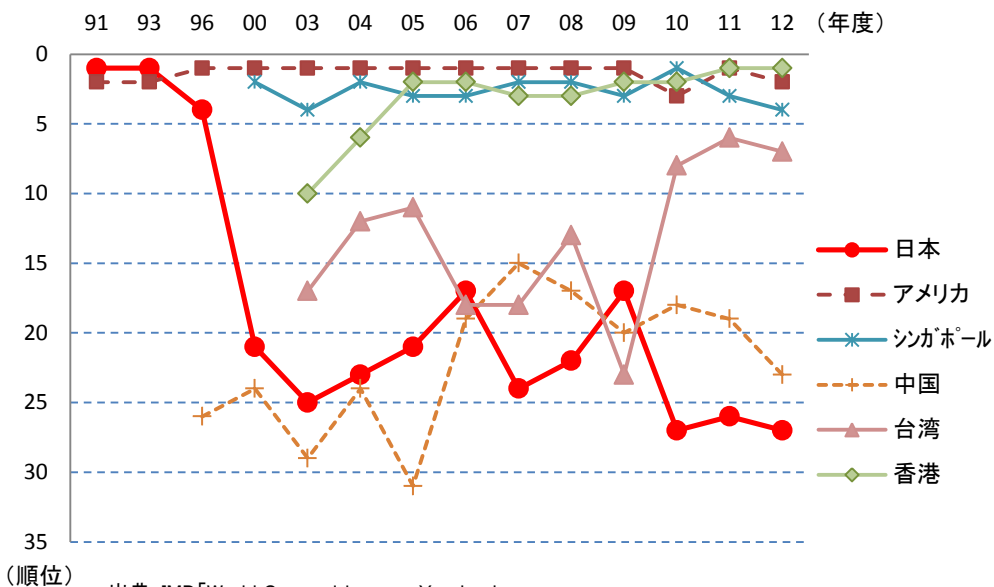
■現状

- 国際化・経済のグローバル化が進み、国際的な競争が激しくなる中、世界経済における日本の地位が低下。
- アジア各国の若者が海外へ活動の場を広げる中、我が国の若者は、内向き志向が強いという傾向。

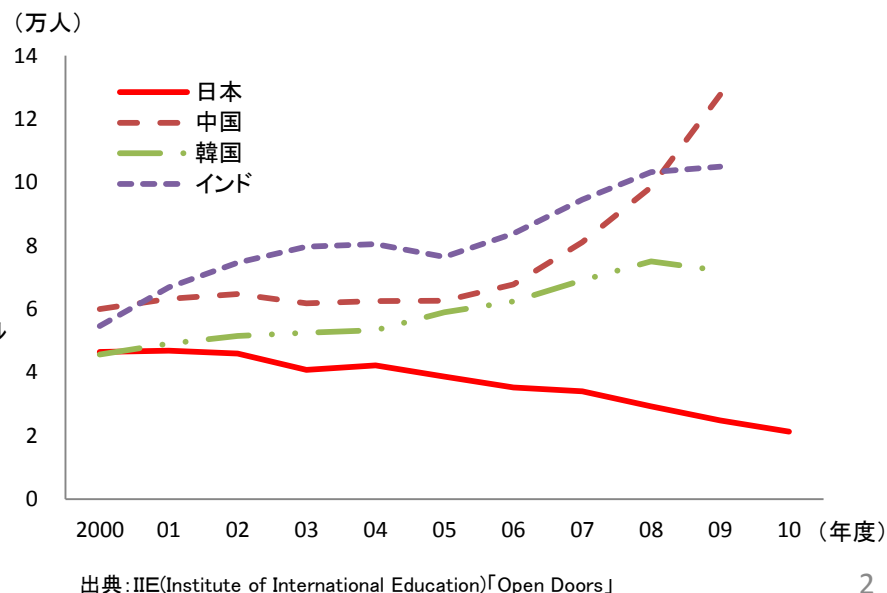
■課題

- グローバル社会において、大阪の若者が力強く生き抜いていくためには、語学力やコミュニケーション能力をはじめ、チャレンジ精神、異文化に対する理解など、グローバル社会での活躍を視野に入れた知識・能力の育成が求められている。

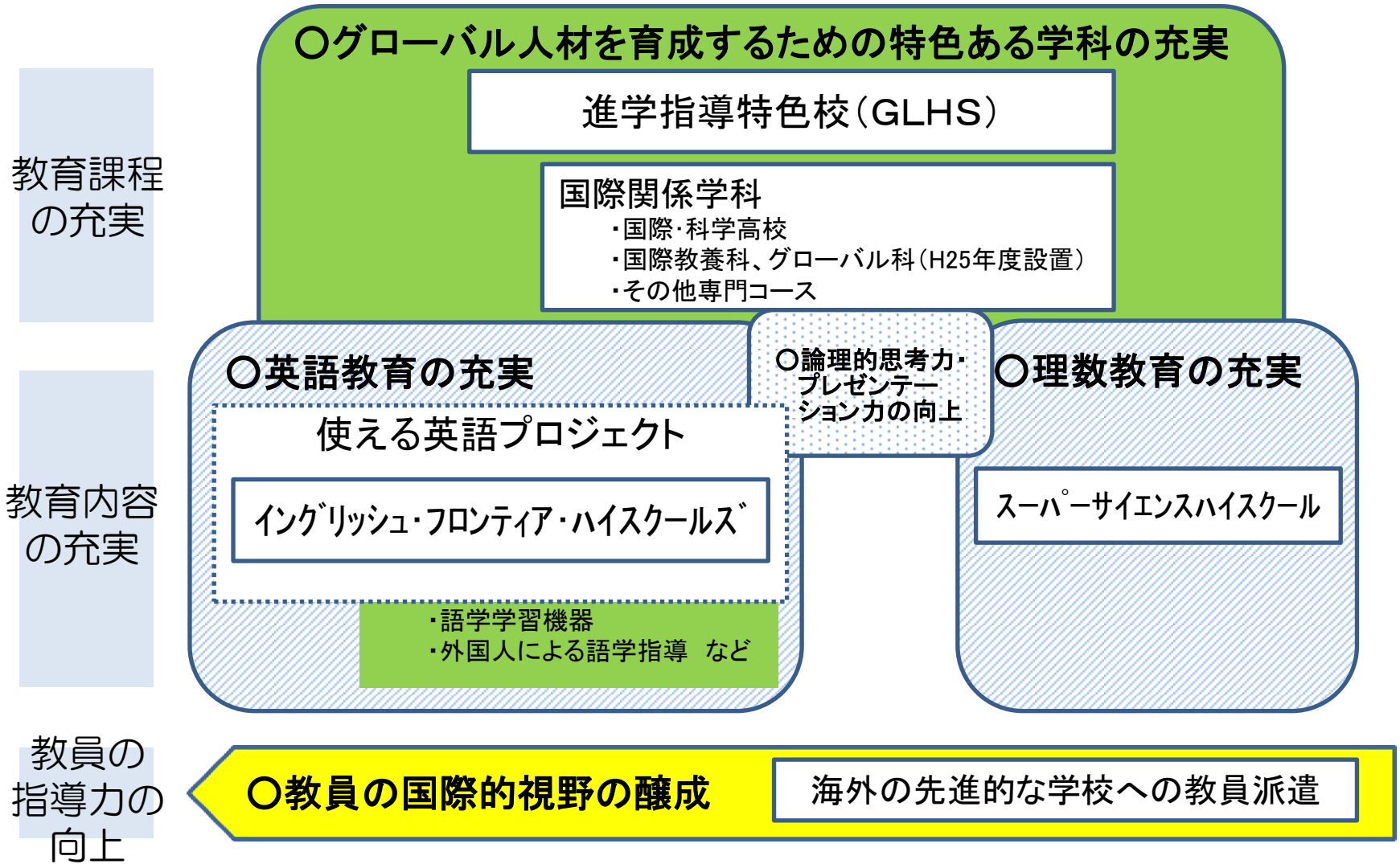
国際競争力の推移



アメリカの大学における留学生数（アジア）



これまでの主な取組



<<論点>>

- ①進学指導特色校(GLHS)の方向性
- ②英語教育のさらなる充実のために必要な取組
- ③コミュニケーション能力を向上する方策
- ④生徒の海外体験を促進するための取組
- ⑤教員の国際的視野を醸成する方策

②-2. 多様な学習と幅広い進路選択が可能となる 学習メニューの提供

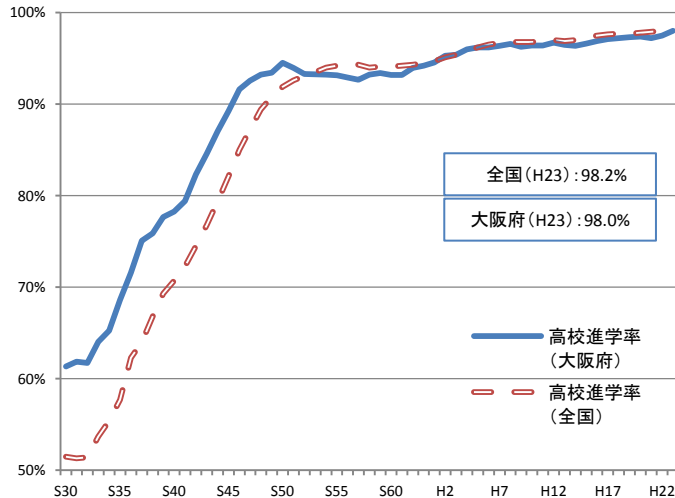
■現状

- 高校進学率は年々上昇し、中学校卒業後の進路として大半が進学を選択。
- 生徒の様々なニーズに応える多様な選択肢として、総合学科高校や普通科総合選択制高校など、特色ある学校・学科を開設。

■課題

- 知識基盤社会を生き抜く力を身に付けられるよう、基礎学力、活用力、探究力といった確かな学力をはぐくみ、生徒の学習意欲を引き出す学習メニューと指導方法の提供が不可欠。
- 特色ある学校づくりを進めているものの、学校の違いがまだ十分浸透していないという状況を踏まえ、これまでの特色づくりを検証する必要。

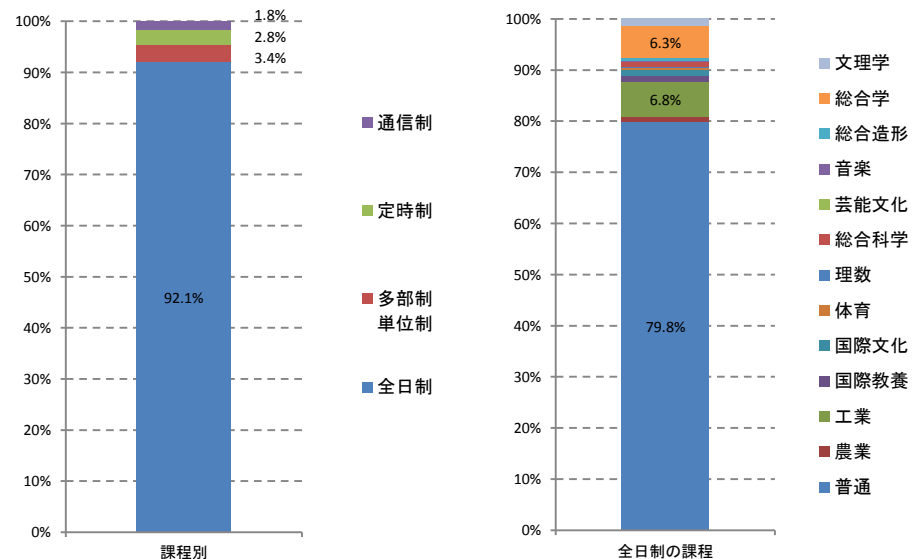
中学校卒業後の高校進学率の推移



※高校進学率=高等学校等の進学者/中学校等の卒業者
 ※高等学校等: 高等学校、高等専門学校、特別支援学校高等部
 ※国立・公立・私立を対象(全日制・定時制・通信制)

出典: 文部科学省「学校基本調査」

府立高校の課程・学科別生徒数の割合



※大阪府教育委員会調べ(平成23年5月1日現在)

これまでの主な取組

学習意欲の喚起

特色ある多様な学校・学科を設置し、幅広い学習メニューを提供

・普通科に加え、工業、農業、芸術、スポーツ、理数、英語、福祉、環境分野等の幅広い学習メニュー

普通科高校	普通科のみ	
	専門コース設置	
	専門学科併置	文理学科
		国際教養科
		体育科
		芸能文化科
	音楽科	
総合選択制		
単位制		
教育センター附属高校		
総合学科高校		
専門高校	農業	
	工科	
	国際・科学	
	総合造形	
クリエイティブスクール		
夜間定時制高校		
通信制高校		
連携型中高一貫校		

確かな学力の定着

授業評価

生徒一人ひとりにとって、いっそう理解しやすい授業

外部人材の授業活用

ICTを活用した授業の充実

教育センター附属高校におけるカリキュラム研究

<<論点>>

①中学生のニーズに合致し特色のわかりやすい学校とは

②入学後の多様な選択肢の提供

③授業をはじめとする教育活動の充実・活性化

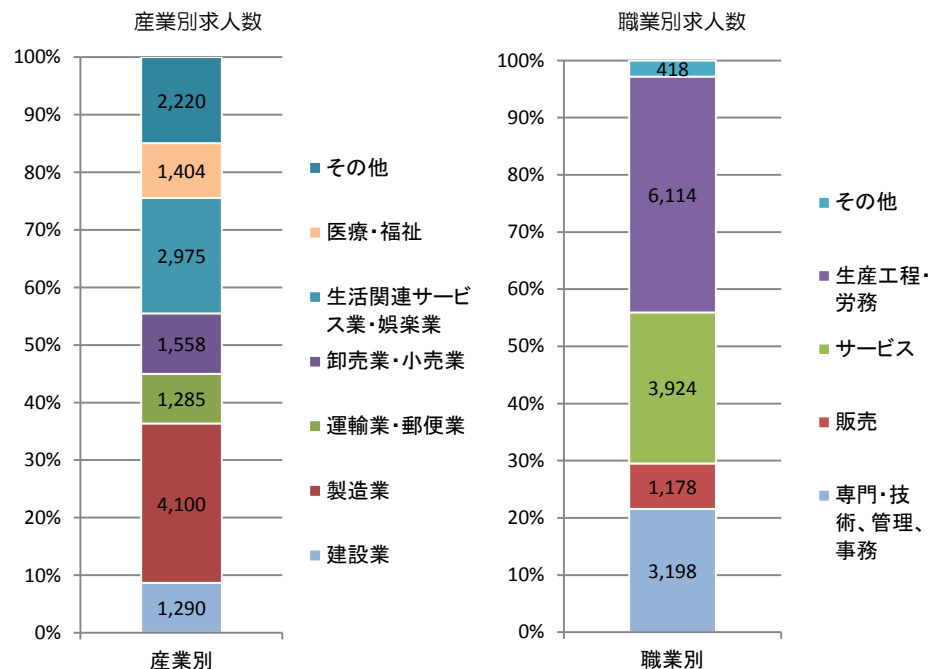
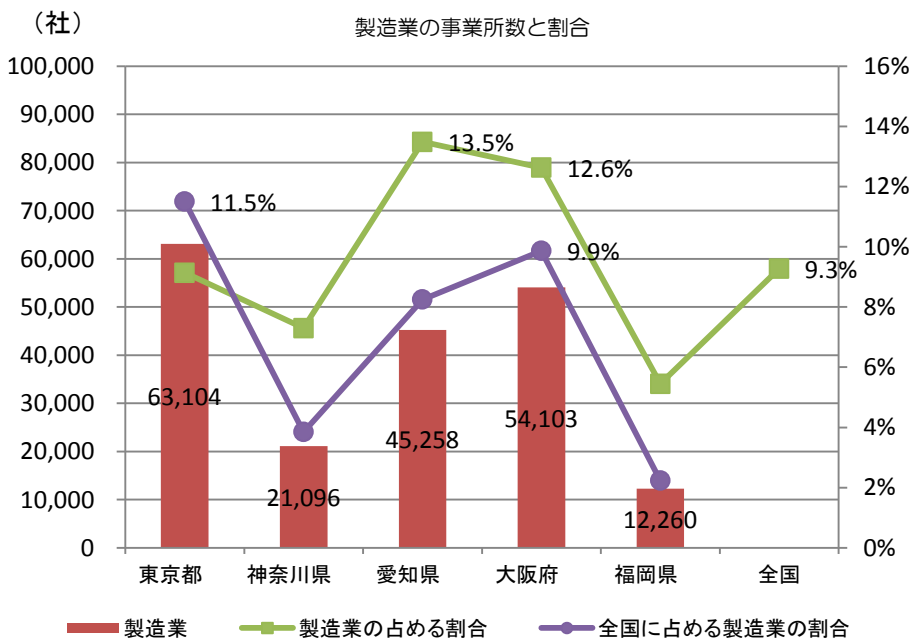
②-3. 「ものづくり」をはじめとする職業人の育成

■現状

- 大阪には、「ものづくり」のまちとして、中小企業を中心に製造業の事業所が集積しており、高校卒業者が貴重な労働力として活躍してきた実績がある。
- 事業者側が採用時に求める専門的な知識・技能レベルと専門高校における教育内容が合致していない可能性。

■課題

- 製造業や農業をはじめとする大阪の産業の活性化に寄与するよう、産業構造の変化や技術革新、情報化の進展等に対応した人材の育成が要請されている。



これまでの主な取組

〇ものづくり教育コンソーシアム大阪

港南造形高校

工科高校

専門性の高い
職業人の育成

農業高校

大阪の都市農業
を担う職業人の
育成

産業構造の変化や地域産業のニーズ、IT技術等の
進歩に対応した実業教育の充実

老朽化した施設の更新

大学・地域産業と連携し
カリキュラムを充実

最先端機器の活用研修

資格取得の推進

<<論点>>

①大阪の産業振興に寄与する実業教育のあり方とは

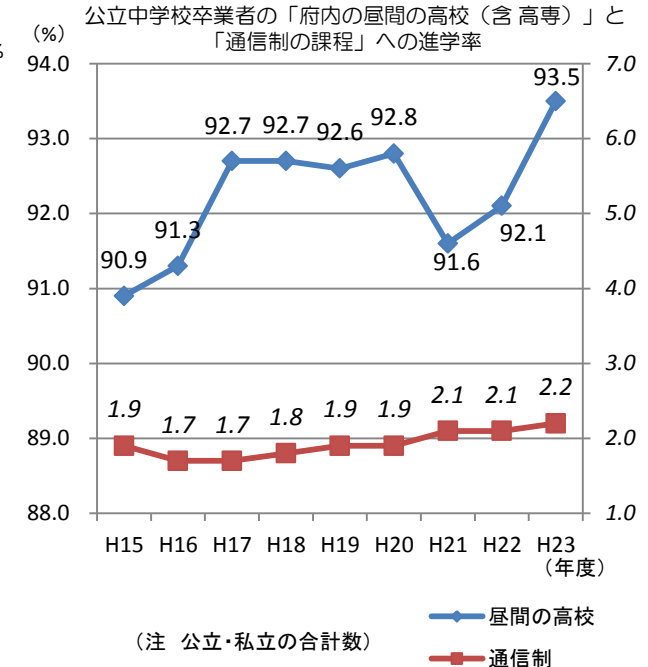
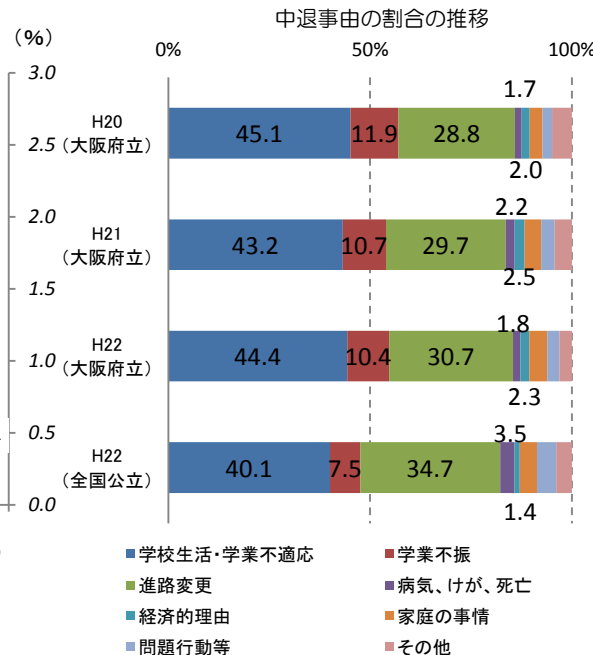
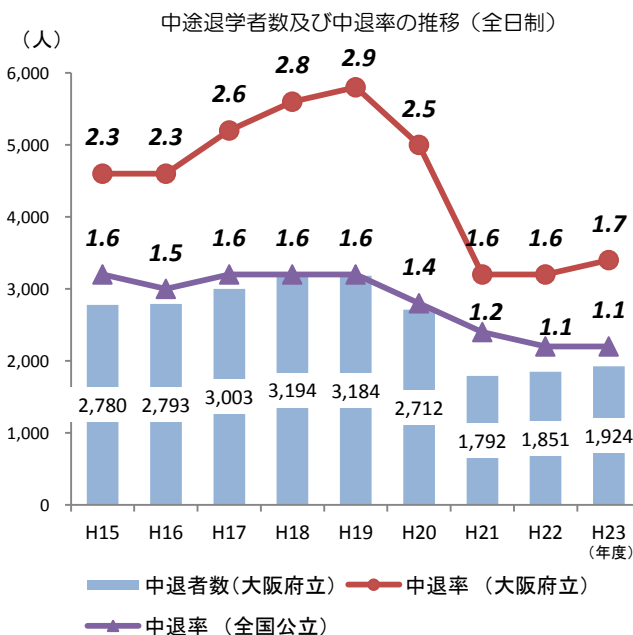
②-4. 「セーフティネット」の整備と「セカンドチャンス」の提供

■現状

- 府立高校における不登校や中途退学の割合は全国平均よりも高く、それらの多くが「学校生活・学業不適応」や「学業不振」を理由としている。
- 通信制高校への進学率は増加傾向にあるものの、公立の高校は他府県より少なく、1校しか設置していない。

■課題

- 不登校や中途退学のきっかけとなっている学業不振に対応し、基礎学力の定着を図る取組が不可欠。
 - 生徒の学習意欲にこたえ、生徒の多様な学びが可能な教育課程の充実や学び直しのしくみを充実する必要。
- とりわけ、増加する通信制高校へのニーズに対応するための受け皿づくりが求められる。



これまでの主な取組

教育課程
の充実

○ 自分の生活スタイルやペースに合わせて学べる高校

● クリエイティブスクール (全日制総合学科)

	午前の授業				午後の授業			
	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
全日制 総合学科	1～8限の中から1日6時間の授業を選択							

(多部制単位制)

	午前の授業				午後の授業			
	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
I 部 (午前の部)	1日6時間							
II 部 (午後の部)					1日6時間			

1日6時間の授業
3年で卒業
 1日4時間の授業
4年で卒業

● 通信制の課程(桃谷高校)

< 通信制課程のスクーリング時間帯 >

	日	月	火	水	木	金	土					
9:30	1限											
10:20												
10:30	2限											
11:20												
11:30	3限											
12:20		昼間部										
13:10	4限	1限 13:20		1限 13:20		1限 13:20	13:20					
14:00												
14:10	5限	2限 14:20		2限 14:20		2限 14:20	14:20					
15:00												
15:10	6限	3限 15:10		3限 15:10		3限 15:10	15:10					
16:00												
16:10		4限 16:10		4限 16:10		4限 16:10	16:10					
16:20												
16:20		4限 16:20		4限 16:20		4限 16:20	16:20					
17:10												
17:10		4限 17:10		4限 17:10		4限 17:10	17:10					
18:00	日・夜間部											
18:50							1限				1限	
19:00												
19:50							2限				2限	
20:00												
20:00												
20:50	3限					3限						
20:50												

学び直し
のしくみ

○ 編転入募集(平成24年度実績)

- 3月
 - ・クリエイティブスクール(全6校)
 - ・通信制の課程(桃谷高校)
- 9月
 - ・全日制単位制(長吉高校)
 - ・クリエイティブスクール(桃谷高校)

○ 公立・私立高校間(全日制の課程)での 新たな転学機会

- 府内の高校生に、ニーズに応じた教育環境で学習する機会を提供する観点から、平成23年度2学期当初より実施

○ 生徒一人ひとりの能力や適性に応じた基礎学力の定着

○ 社会的経済的自立につなげる

<<論点>>

- ①中学校段階の学習面でつまづいている生徒に対する「セーフティネット」の整備について

- ②「セーフティネット」としての定時制・通信制のあり方とは

- ③中途退学した生徒に対する「セカンドチャンス」の提供について